

## 協働の手引き・事例集

### 第1回アクションチームでの検討状況

#### 1 市民向け 協働の手引き・事例集について

- ・1,000人の登場人物の顔が見えるようにする。100人だと本気度が伝わらない。
- ・作成に際し、サポセンの市民ライター講座卒業生や、新たに市民ライターを募集してもいい。ライターの写真やクレジットを載せれば、モチベーションも上がる。
- ・取材から掲載までのスピード感が大事なので、まずはサイトにアップしていき、それを冊子やパネル化するという手順になるのではないかと。冊子に載る人には、フォーマットを作って協働のポイントなどを再度聞く。
- ・事例をパネル化して、マチノワ WEEKなどで展示すれば、集客にもつながる。パネルは何度でも使えるので、様々なところで展示できる。
- ・ホームページのデザインは重要なので、フォーマットが決まった仙台市のホームページよりも、専用のホームページを作成したほうがいい。スマホに対応した形にする必要がある。
- ・全事例を映像版にするのは予算的にも難しいと思われるので、映画の予告編のようなショート版の活動紹介PVのようなものか、事例を抽出して取材に行くことが考えられる。活動者が撮影した映像を活用する方法もあるが、見てもらえるほどのクオリティにできるかが課題。
- ・伊達政宗公生誕450年など、別のものと絡められないか。1,000人ではなく450人とするやり方もある。

#### 2 市職員向け 協働の手引き・事例集について

- ・仙台協働本（こらぼん）を、時代の変遷に合わせた内容に変更する必要がある。
- ・事例を積み重ねてきた中から、内容に反映させることも重要。
- ・例えば学識経験者等に、アドバイスをもらうことを考えてもよいのではないかと。